



様々な設備を備える園芸流通センター

今回は、JA越後ながおかの園芸振興の取り組みについて紹介するね。



自己改革

おしえて!ドクターJ

第4回

農業者の所得増大・
農業生産の拡大
～園芸振興の取り組み～

～キャラクター紹介～

ドクターJ



J Aに詳しい博士。前回急に独立志向を見せたA君に、J Aの取り組みの紹介を通して助け合うことの大切さを説く。

A君



ドクターJの助手。ドクターJがヒーtrupしていつも以上に熱く語り始めたので、いつも以上に聞き役に徹している。

多彩なアプローチで生産者をサポートしているんですね。



主要園芸作物「サトイモ」が多く並ぶ「なじら～て東店」(12月頃)

ドクターJ JA越後ながおかは、自己改革の基本目標の2つ「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」のため、エダマメとサトイモを主要園芸作物として作付の拡大を図っているんだ。今年からはそこにネギも加えて力を入れている。

A君 生産者にはどのようなサポートをしているんですか?

ドクターJ 平成29年に、「園芸流通センター」という施設を造ったんだ。センターでは、色彩選別機や保冷庫、真空予冷機などの設備の整備がすすめられている。選別から出荷までの作業をJAが行うことで生産者の負担を減らし、生産量の増加と産地化へ繋げるのが目的の施設なんだよ。

A君 そんな施設があるんですか!それは助かりますね。JAの施設を巡っているアヒルの知り合いに、今度見に行くよう言っておきます!

ドクターJ また、直売所「なじら～て」のファン拡大を

進めることで、農産物の販売増加にも取り組んでいる。イベント開催などで年々来場者を伸ばして、29年度には来場者が37.7万人、販売高は6億円にまで達したんだ。

A君 それだけ多くの農産物が売れていたら、JAグループが目指す「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」にも、もちろん繋がりますね。

ドクターJなじら～てでは、市民交流施設「e・ne」を活用した地元農産物の魅力のPRや、出荷会員への研修会や指導会による作付・品目拡大の働きかけなどにも取り組んでいるんだよ。

A君 多彩なアプローチでのサポートがあるんですね!やっぱり助け合いは大切だと思います。

ドクターJ他にも生産部会を作って品質や出荷量、ブランド力の向上を図ったりもしている。生産者とJAで一丸となって、越後ながおか産の野菜の評価向上のために取り組んでいるんだ。

次号へつづく...